

日刊 動労千葉

83. 9. 19
No. 1446

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（22）七二〇七



●おしかけてきた大量の「本部」オルグ団に一步もひかず、職場入口で対決し、勝利していった館山支部の組合員（右側）。（一九七九年四月～五月）



動労千葉は、十月五日～六日に第八回定期大会を開催します。今大会は、八月八日のパイプライン供用開始によって、五年間にわたるジェット燃料貨車輸送阻止闘争が終了するという新たな情勢のなかで、動労千葉が労農連帯を堅持し「反合・三里塚を基軸に闘う労働運動」路線を再確認する重要な大会であります。教宣部では大会の成功にむけて、五年間の三里塚・ジェット闘争を総括し、さらに強化、発展させる立場から座談会を開催し、組合員の率直な意見を聞いてみました。座談会は「分離独立の闘い」「三里塚・ジェット闘争」「全般的闘い」に分けて行いましたが、「日刊動労千葉」紙上では一部を紹介し、詳細は機関誌「動労千葉」第九号で報告する予定です。

定期大会成功への職場討論の深化のために

Ⅰ 確信と団結を固めた分離独立の過程

座談会出席者				
E	D	C	B	A
新小岩・機関士・四七歳	山・電運士・四二歳	館山・電運士・四二歳	検修係 二二三歳	勝浦・電運士・五〇歳
・二七歳	・四一歳	・二七歳	・二七歳	・四五歳
本部	本部	本部	本部	本部
教宣部	教宣部	教宣部	教宣部	教宣部

連日、大量の暴力オルグ団と対決 張りあいのある楽しい毎日だった

今定期大会は、五年間の三里塚・ジェット闘争の総括と、激動の中で労働組合がいかに進むのかを選択する重要な大会です。大会の成功にむけて、職場での討論を豊富にしていく一助として、今回、現場の皆さん方に集まっていたいただき、いくつかのテーマにわけてざっくばらんに感想など出し合っていたらどうと思います。

まず第一回目の本日は、「一九七九年の動労千葉分離独立の過程」を中心としたテーマで、職場での色んな苦闘や感想、決意などを出していただきたいと思います。

（Fさん）
三月二〇日ごろ、地本（当時）の執行権が停止され、これはとんでもないことだ、というのが実感でした。勝浦にも二二～二三日頃、相当な人数でオルグに来ましたが、なんで執行権を停止したのかといったも答弁もできないから追い返しました。当時、本部はひどいことをするといっても知らない人もいたんですが、四月一二～一三日頃オルグ団がかなりひどいことをしていったんです。あの姿をみたり、動員に出て、組合に協力的でなかった人も組合意識をもつようになりました。

（Dさん）
オルグ団がくるまで、やるうという力はなかったけど、押しかけてこられて、これではいけないと一致団結したんですよ。だからオルグそのものでまとまったと思いませんね。

（Cさん）
オルグが一番多く来たのが八〇人位で、ホームが一杯になったですね。小ぜり合いもあったけど、そういうことがあってより一層団結が高まった気がするね。

（Dさん）
津山大会や水上事件なんか話にしかなかったけど、関心がなかったけど、実際目のあたりにしたのが本部のオルグでしたね。

（Hさん）
あの頃は毎日が楽しくてしょうがなかったですね。（笑）青年部員なんか地本防衛、支部防衛をやって、今日は帰れといっても面白いから帰らなかった。今は刺激がなくて若い人の覇気がないですね。（笑）多い時は七〇人位来て、掲示をはがして持ってきた掲示をはって帰りました。

（Dさん）
館山では乗り遅れた三人を捕えて自己批判書を書かせたけど、泣きながら自己批判した人もいましたよ。（以下次号につづく）

座談会

5年間をふりかえって

ハンドル握って
闘い続けた
三里塚ジェット闘争

勝利を争ったジェット三里塚！ 砕粉革行・調臨

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！